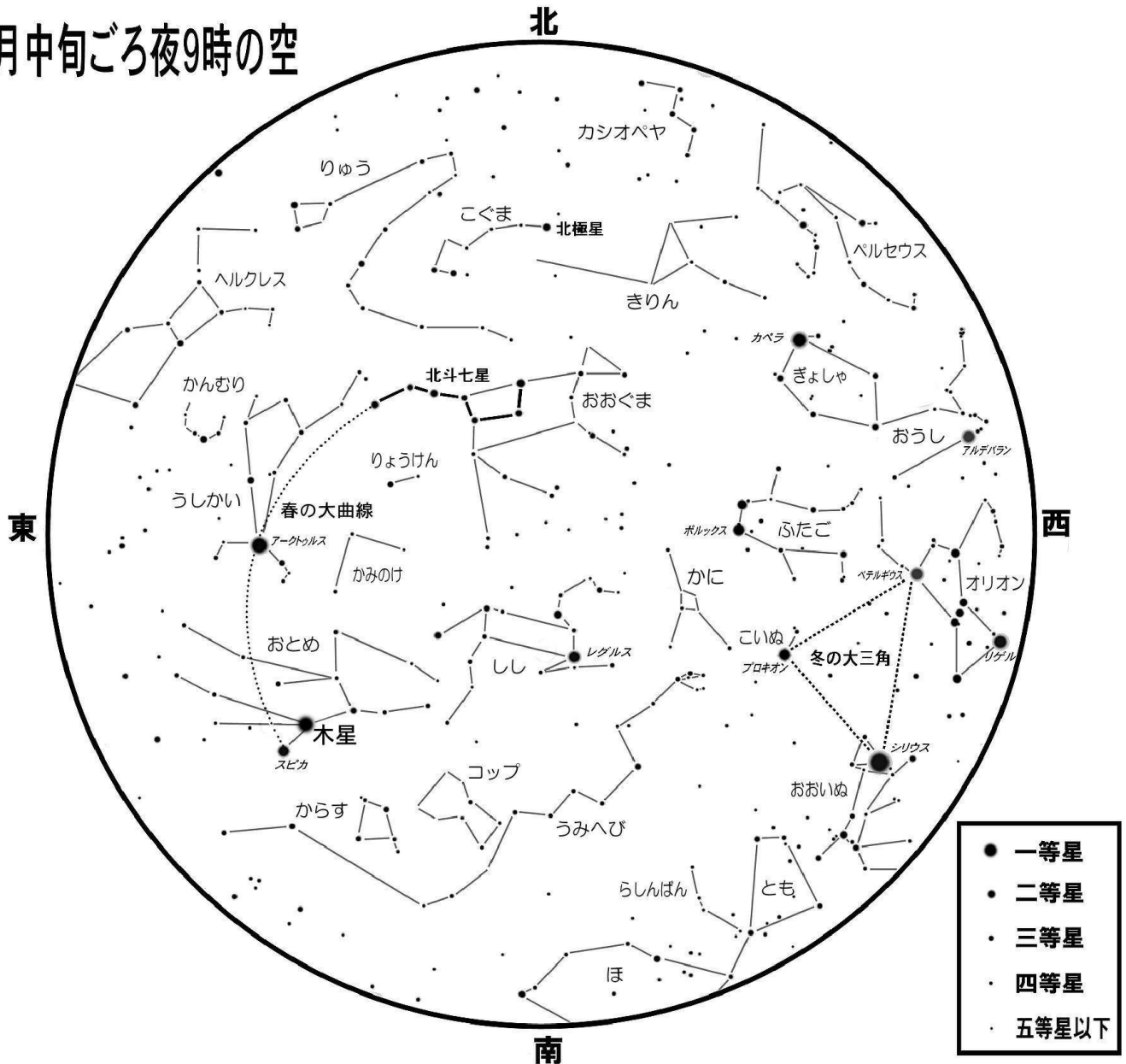


阿南市科学センター 4月の星空案内

4月中旬ごろ夜9時の空



寒い冬が終わり、いよいよ春を迎えました。華やかな冬の星座は西の空へと追いやられ、北の空には春を代表する星の並び、北斗七星が大変良く目立ってきました。しかし、まだまだ夜間は冷えこんだりすることが多いですから、星を見るときには風邪などひかないように注意が必要です。

さて、春先は大陸からやって来る黄砂の影響もあり、晴れても星がすっきりとしないことが多いのですが、かえって、星の光がやわらかく見え、これはこれで春らしいとも言えます。今年は春の星座の代表、「おとめ座」の中に明るい木星がありますので、少しだけ派手な春の夜空を楽しむことができるでしょう。

天体観望会のご予約、お問い合わせは






阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

4月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	☾ (上弦の月)	○ 満月	☾ (下弦の月)	● 新月
見える日	4日	11日	19日	26日

惑星

	水星 	金星 	火星 	木星 	土星 
上旬	日の入り直後、西の超低空に見える (0.7等級)	明け方の東の空に見える (-4.3→-4.5等級)	夕方、西の低空に見える (1.5→1.6等級)	午後8時ごろ南東の空に見える (-2.5→-2.4等級)	明け方、南の空に見える (0.2→0.1等級)
中旬	太陽に近く観察は難しい				
下旬					

天文館夜間天体観望会 4月の見もの天体 ~木星状星雲~

この時期の夜空は、冬の星座の中にある星雲や星団を除けば、小さな天体ばかりで、小口径向けの天体が非常に少ないのが特徴です。そんな中、比較的に見やすいのが、うみへび座にある天体、「木星状星雲」です。この天体の正体は、もともとここにあった星がその一生を終え、恒星内部のガスが外に噴出してできたガスの塊です。

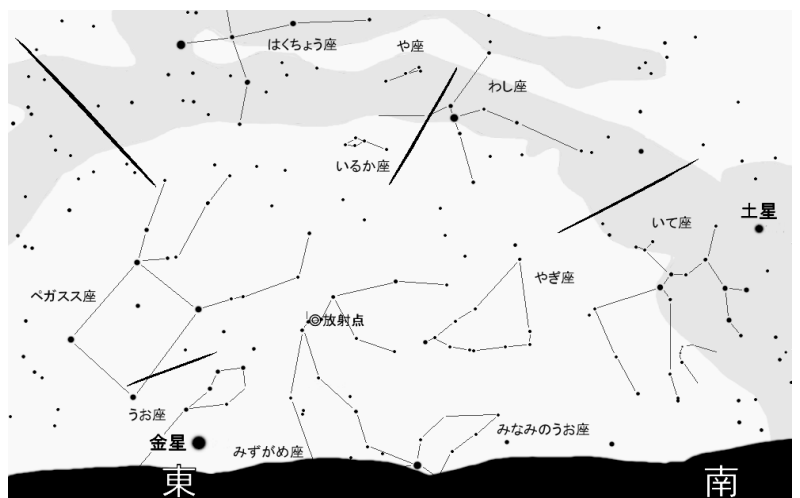
「木星状星雲」の名前の由来となっているのは、その形、大きさが木星とよく似ていることからつけられています。ちょうど、この春は木星が見やすいですから、観望会に参加していただくと、本物の木星とともに、この星雲も見えますので、ぜひ天文館の大型望遠鏡で見比べてみて下さい。



5月6日(土) みずがめ座流星群がピーク

今年のゴールデンウィークは5連休という方が多いと思いますが、期間中の6日(土)、春を代表する流星群のひとつ、「みずがめ座流星群」がピークを迎えます。この流星群は南半球に行くと、1時間あたり数十個の流れ星が見られるのですが、日本からですと、早朝の現象、数も1時間あたり数個~10個程度ということもあって、そんなに注目されることはありません。しかしながら、明るい流星が比較的多いので、それなりに楽しむことができます。

今年のピークの時間は6日の午前10時と予想されていますので、観察は6日の早朝に行うのがベストです。また、月の巡り合わせで言いますと6日の早朝は午前3時に月が沈みますから、それ以降、明け方までが観測のチャンスとなります。なお、流れ星は放射点と呼ばれるところから、飛び出してくるよう見えますので、観察する場合は、放射点を中心として、できるだけ広い範囲を見るようにしましょう。



6日午前4時の空

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600